

第6回産業建設常任委員会 要点記録									
開閉会日時	平成30年8月27日(月曜日)			開会	9:58		会議場所		別海町議会 委員会室3
				閉会	10:59				
委員の出欠	2 番	外山 浩司	出席	9 番	沓澤 昌廣	出席	11 番	瀧川 榮子	出席
	14 番	渡邊 政吉	出席	15 番	佐藤 初雄	欠席			
出席説明員	産業振興部長		登藤 和哉	産業振興部次長		門脇 芳則	農政課長		小野 武史
	水産みどり課長		新堀 光行	商工観光課長		伊藤 輝幸	農政課主幹		上田 健一
	農政課主査		寺澤 敦司						
委員外の出席									
事務局職員	事務局長		浦山 吉人	主幹		松本 博史			
会議に付した事件及び会議結果など									
発言者			会議経過						
委員長	9番	沓澤	9:58 開会 開催概要説明 出席委員4名、欠席委員1名 開会あいさつ 挨拶及び概要説明 議事1 所管事務調査について (1)バイオガスプラントについて 資料により内容説明 ・事業概要（資料の読み上げ省略） ・施設稼働状況 - 当初計画値に係る前回委員会時の資料の数値に誤りがあった部分の説明 29年度実績説明 ・経営状況 質疑 特別損失の意味は。 減価償却で見込んでいた儲けが将来に期待できないため資産を減らすことである。 補足説明 14億円を損失させるということは、14億円以上の価値があるということか。 有形資産と無形資産と合わせて、その価値がある。 有形資産、無形資産とは。 有形は建物、無形はソフトウェアなどの資産となる。 消化液の単価は。 当初計画は660円/トン、29年度は5円/トンとなっている。 単価が5円/トンとなった経緯は。 当初の計画に引き取り義務がなかったことから、まず消化液をさばくことに専心している。プラントまで近い農家はよいが、遠い農家の利用を促進するため単価を下げて消化液をさばく必要があった。 今後もこのような単価での販売を続けるのか。 今後、再建を進めていく中で、隣接地に貯留槽を設置することで、適正な価格で販売していく考え。 近間の人は良いが、不特定多数の受益者農家から、運搬の手間の解決が必要ではないかという生の声を聴いている。運搬費用を含め、見直す時期に来ているのではないか。						
委員長	9番	沓澤							
産業振興部長		登藤							
農政課主査		寺澤							
産業振興部長		登藤							
委員長	9番	沓澤							
農政課主査		寺澤							
委員長	9番	沓澤							
農政課長		小野							
副委員長	14番	渡邊							
農政課主査		寺澤							
副委員長	14番	渡邊							
産業振興部次長		門脇							
副委員長	14番	渡邊							
産業振興部長		登藤							
副委員長	14番	渡邊							

発言者			会議経過
委員長	9番	沓澤	9:58 開会
			開催概要説明 出席委員4名、欠席委員1名
委員長	9番	沓澤	開会あいさつ
産業振興部長		登藤	挨拶及び概要説明
			議事1 所管事務調査について (1)バイオガスプラントについて
農政課主査		寺澤	資料により内容説明
			・事業概要（資料の読み上げ省略） ・施設稼働状況 当初計画値に係る前回委員会時の資料の数値に誤りがあった部分の説明 29年度実績説明 ・経営状況
委員長	9番	沓澤	質疑
副委員長	14番	渡邊	特別損失の意味は。
農政課主査		寺澤	減価償却で見込んでいた儲けが将来に期待できないため資産を減らすことである。
			補足説明
産業振興部長		登藤	14億円を損失させるということは、14億円以上の価値があるということか。
委員長	9番	沓澤	有形資産と無形資産と合わせて、その価値がある。
農政課主査		寺澤	有形資産、無形資産とは。
委員長	9番	沓澤	有形は建物、無形はソフトウェアなどの資産となる。
農政課長		小野	消化液の単価は。
副委員長	14番	渡邊	当初計画は660円/トン、29年度は5円/トンとなっている。
農政課主査		寺澤	単価が5円/トンとなった経緯は。
副委員長	14番	渡邊	当初の計画に引き取り義務がなかったことから、まず消化液をさばくことに専心している。プラントまで近い農家はよいが、遠い農家の利用を促進するため単価を下げて消化液をさばく必要があった。
産業振興部次長		門脇	今後、再建を進めていく中で、隣接地に貯留槽を設置することで、適正な価格で販売していく考え。
			近間の人は良いが、不特定多数の受益者農家から、運搬の手間の解決が必要ではないかという生の声を聴いている。運搬費用を含め、見直す時期に来ているのではないか。
副委員長	14番	渡邊	

第6回産業建設常任委員会 要点記録

農政課長	小野	貯留槽の確保やサテライト貯留槽の展開も含め、対策を事業再建計画の中で考えていく。
委員	2番 外山	生ごみなどの受入料金、バイオガス車の利用状況は。
産業振興部次長	門脇	バイオガス車は、中西別のプラントに関連する車両であるが、現在、有資格者が不在であり、ガソリン車で動かしている。生ごみなどの副資材の受入単価は16,200円/トンとなっている。
委員	2番 外山	副資材の受入量の状況は。
農政課長	小野	4月から7月で146トンの実績となっている。
委員	11番 瀧川	消化液の単価がまた上がったときに、それだったら利用をやめるといふ農家が出るかもしれないが、そのあたりの対策は。
産業振興部長	登藤	まずは、受入制限を無くし、安定的な受入ができるようにし、その上で消化液の売買をしっかりとやっていくため、現在、各利用者に農協と会社が説明に歩いている。
副委員長	14番 渡邊	利用農家数は、当初、計画したときに80数戸であったと記憶しているが。
産業振興部次長	門脇	もともと89戸であったが、現時点でまだ一回も施設を利用していない農家もいる。なお、当初の計画は、各農家が全量を搬入するのではなく、個々の農家によって搬入量が違い、毎日搬入する人もいれば、1ヶ月に1回という人もいる。
副委員長	14番 渡邊	受入総量で計画をしているということであろうが、当初計画をしていたにもかかわらず、一回も利用していない農家と会社との契約はどうなっているのか。今も搬入を推奨しているのか。
産業振興部長	登藤	受入制限の状況があり、それなら利用しないという人も現状はいる。安定的な受入体制にして利用を促進したり、サテライト機能により利用を促進したい。発電効率の良い産廃を受け入れして、発電量を確保していきたい。廃ビートを受け入れているが、搬入量が不安定である。他の産廃により受入量を確保していきたい。
副委員長	14番 渡邊	研修牧場は利用しているのか。
産業振興部次長	門脇	距離的な事情があり利用していない。
副委員長	14番 渡邊	正直、黒字に転換するというのは相当難しいと思うが、会社から何らかの相談がないのか。
産業振興部長	登藤	資金注入は冗談ではないということで、いままで経営改善に向けていろいろな手を打っている。町としても努力をしているが、運営会社においても社長交代というテコ入れがあり、これから赤字解消に向けて努力していくと考えている。
委員	11番 瀧川	サテライト設置の見込みやサテライトに係る人件費の見込みは。
農政課長	小野	現在、会社が個別の農家にあたっており、4戸程度協力してくれそうであるという話を聞いている。貯留施設であるため、人件費は施設そのものには要しないと考えているが、運搬に係る経費についてはまだ不明である。
副委員長	14番 渡邊	説明を聞けば、確かにもともとサテライト貯留施設が計画に必要であったような感じがあるが、これから整備を急ぐ必要があるのではないかと。第2、第3のバイオガスプラントという構想もあったが、現状を考えると難しくなっている。これは、行政も議会も責任があるし、問題を解決してすっきりしたい。他の自治体におけるバイオガスプラントの状況はどうか。

第6回産業建設常任委員会 要点記録

産業振興部長	登藤	鹿迫は、畑作農家への消化液の還元がメインであることから、消化液がとて よくさばけるのでバイオガスプラントの経営はうまくいっている。また、運営も手練 れの人が多い。上土幌は、農協営で運営しており、15年の貸与を受けている ため、利用農家も必死になるのでうまくいっている。対して、別海のバイオガスプ ラントは、想定外の内容物の受入、詰まる、ガスが出ない、消化液が売れな い、グループ会社による修繕の状況が見えにくいなど課題があり、これまで改善 の努力をしてきているが、会社において取締役会を行い、期限を決めて赤字 解消の努力をすると聞いている。
副委員長	14番 渡邊	いずれにしても改善計画により良い方向に向かって努力をして頂きたい。
産業振興部長	登藤	良い話も一点ある。十勝の方から産廃の搬入がなされる新たな取引先があり そうだという話を聞いている。
副委員長	14番 渡邊	町内には産廃がないから、町外からの搬入となるのか。
産業振興部長	登藤	すでに取引先がある事情から町内の開拓は難しいが、町外には産廃の処理 に困っている事業者があり、営業を行っている。
委員	11番 瀧川	消化液が5円/トンになってしまったが、消化液は農家にしかさばけないのか。
農政課長	小野	当初は、全量契約農家に還元という計画であったが、消化液がさばけないと いう状況があるため、中標津町の畑作農家に接触しているという話も聞してい る。
副委員長	14番 渡邊	当初の計画である、消化液を全量契約農家に受け入れてもらうという考えは 崩していないのか。
産業振興部長	登藤	今年は、天候の不順により、需要と供給のバランスが時期によって合わない という問題が生じたため、利用農家以外に搬出先を広げないと消化液をさばけ ないという事情があった。
副委員長	14番 渡邊	28年～29年のいずれかの委員会の中で、町内の施設利用農家にしか消化 液を搬出する考えはない、と私の質問に答えていたが、やはり、その際に私から 指摘したとおり、搬出先を広げ、農家以外にも消化液を使ってもらおうという考え でよいのではないか。
産業振興部次長	門脇	貯留槽を作るためには、町と農協で75万円の補助でしかなく、総額で造成費 が300万円かかるため整備が躊躇される。職員も営業に行っているが、貯め る場所がないという難しさを感じている。
副委員長	14番 渡邊	農家も化学肥料を多額に購入しているのだから、消化液を使うことが長い目 で見れば良いので、もっと農協の協力が必要ではないか。
産業振興部長	登藤	中西別のプラントがこれまで続けてこられているが、平成11年に建設され、平 成18年から構成の全農家が利用している。明日から急に状況が変わるもの ではないが、農協のコマーシャルもほしいところではある。
委員長	9番 沓澤	議事2 その他
産業振興部長	登藤	本日調査を頂いたバイオガスプラントについては、経営改善計画を9月定例会終了後 に説明させて頂きたい。また、9月は、産業祭が定例会終了後に行われるので、祈願 祭の参加、枚方市との交流も含めて、イベントを盛り上げていただきたい。
委員長	9番 沓澤	特になし
委員長	9番 沓澤	10:59 開会